

平成29年度第1回堺市歴史的風致維持向上協議会

1 日時 平成30年3月27日（火）10時～11時30分

2 場所 堺市役所本館3階第1会議室

3 出席者

委員 増田委員、宗田委員、橋爪委員、佐藤委員、狭間委員

事務局 笠谷局長、窪園局長、大丸部長、藤田部長、宮前室長、盛尾部長、鹿野課長
角田室長

【おもな意見】

- 百舌鳥古墳群ガイダンス施設の整備について、イコモスの現地調査の影響等を考えると拙速に進める必要はない。工期を延期してじっくりと内容等を確認して建設すべき。（小浦委員）
- 歴まち計画の視点で見ると、人々の活動に関する評価についてももっと前面に出てくるようになればよいと思う。「歴史文化資源とそれを支える人々の活動を将来に継承する」という本質は見失わないようにすることが重要。（小浦委員）
- 歴まち計画を進めていくに当たっては名勝や天然記念物、民俗などの分野についても保護活用をしていくよう努めてほしい。文化財の活用にあたっては、適切な保存管理を講じた上で正しく活用を進めてほしい。（森屋委員）
- 井上家住宅について、今後整備をしていくに当たって、どういう点に留意して整備していくべきなのか、このすばらしさをどのようにアピールしていくのか、恐らくいろんなことを整備しながらも情報発信をしていかないといけないと思うが留意点や御意見等あればお願いしたい。（狭間委員）
- この井上家住宅というのは、これからこれを堺の文化遺産としてどう創造していくかという議論があると思う。これからこの堺の新たな産業を創造する資源としてどう使えるか。あるいは、堺の観光文化も含めて、まちのあり方、文化力というのをどう伸ばしていくのかという大きなまちづくりの戦略のもとにこの資源を評価していくということが必要になってくる。文化財の専門家がそのことを、井上家住宅の価値を語るのではなくて、例えば職人さんとか、あるいは会社の経営者とか、いろんな立場の人が語ってくれるように、そういういろんなコンテクストをここから読み取ってくるというか、それを発信できるような体制に取り組む。（宗田委員）
- 堺市歴史的風致維持向上計画も10年の計画の半ば、後半の5年というのはやっぱり当初の思いとはまた異なる事業などが立ち上がってくるような部分がないといけない。この計画と関連する新規施策が出てこないといけないのじゃないのかと思います。例えば無電柱化など。
- より広い地域の中において鉄砲の鍛冶の産業はあったというところ、時間的な変化による産業がダイナミックに絡んできてるところを示すことが必要であり、観光、国際観光とかの関係から、どのようにこの施設も考えていくのかにしても必要になってくると思う。（橋爪委員）
- 学芸員の方、文化財の考古の専門家の方にもう少し研究計画をつくっていただいて、定期的に

何かを発表してもらおう。

- 市政記者クラブでは、堺市のこの記者クラブでは、毎月何日には文化財から何か発信がある。それにあわせてということすなわちイベントをすることですよね。
- 産業史でイベントをやる。例えばお茶会をやるとか、いろいろ使い道ありますよ、展覧会をやるとかコンサート。町家再生やったとき、コンサートは結構来るのよく知ってるんですけど。これ邦楽もいけるし、もちろんクラシックもいけますよね。それからジャズがいくんですよね。そういうことを積み重ねていって、その都度、その都度、新聞に書いてもらう。そういうことで市民に愛される文化遺産になってくる。
- 百舌鳥・古市古墳群の周辺で広告物、それから高度地区の規制等が強化されたが、単に看板が取られましたという話ではなくて、市民から当事者の方が褒められるように。市の指導に従ったらこんなに褒められたという実績をつくらないといけいない。(宗田委員)
- この井上家を調査することによって、地域や日本全体、世界全体にどう広がるか、その広がり先をどう小まめに拾い上げていき、ネットワーク型で配信していくかというあたりが重要。
- IT化に対してどれぐらい取り組めてるのか。看板整備やとかサイン整備などで、これからそういうところがあるともっと情報発信力が高まっていくと思う。
- 一定整備した段階でしばらく現場を見てないので確認させていただきたいのと、この計画に乗っかる整備計画であれば事前に意見を言わせていただくような。特に鉄砲鍛冶に関する資料の保存の仕方と公開の仕方が当面大きな事案になるかと。
- 文化と観光のうまい調和ということを考えていかないといけいない。百舌鳥・古市古墳群というのは観光対象というよりはずっと巡拝の場なので、そういうことを海外の人にどう伝えていくのかって極めて重要なこと。それは周辺の整備とか案内板のあり方も全部反映していくべきで、私が京都市の観光をずっと長年見てる中、例えば伏見稲荷に行ってもインスタ映えばかり、写真ばかり撮って手を合わせないとか、そんな境内ではいけないことをする人たちが続出すると。この歴史的風致維持向上の中に、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録後の何か課題が出たときに対してどう対応していくのかということとは当然、一定見ておかないといけいない。
- 情報発信で言うと、刀が今ブームで刀女子の人たちが各博物館をめぐるという状況がある。その中で刀鍛冶の話をどう展開するのか。今はちょっと、それこそゲームとかそっちの専門家の人の意見を聞きたい。(橋爪委員)
- 来年度に向けて、10年の中の5年が経過した中で、1つは中間年的な形での総括と、時点修正的なことが可能なのか。あるいはそれと連携した市の単独施策みたいなやつがどうあるべきかみたいなやつを、来年度は一度議論できるような場を設定いただいたら、どこまで踏み込んだ議論ができるのかということがあると思うので、ぜひ一度お願いしたい。
- 事務方から話を聞いたとき、今の状況がわかるものないかと言ったら、これぐらいしか出てきてない。物理的な進捗管理だけじゃなくて、ストーリーの進捗管理みたいなものが1つ要るのかなということも思っている。
- 環濠都市について、古い住宅がほっといたら消えていくということも含めて、まちづくり会社みたいな存在、法人があれば、テナントで例えばIT企業のベンチャー企業とか、民宿など、

伝統産業だけじゃなくて、その建物を使って新しいテナントを入れていく。あるストーリーを書いて、テナントに入り古い町並みも保存される。新しいビジネスが生まれ、その関連産業ができてくる。まちを再生していくというか、現代風に生かしていくための仕掛けみたいなものがやっぱり行政としても真剣に考えないといけない。この議論をバージョンアップしていく中身みたいなやつが必要ではないかと思う。(佐藤委員)

- それは理論化されつつある。その都市化のサイクルをうまく使いながら都心を再生するためには、まず町並み保存がある。そこに職人産業的なものが生まれてきて、大量生産が多品種少量生産に変わる。そうなったら手づくりが評価され、ブティックのようなブランド化が起こってくる。それがだんだんアートになりつつあると、そこに若いアーティストが集まって、つまり創造階級が集まってきて、歴史都市が創造都市に転換する。そのことによって高付加価値化が起こり、その暮らしの質、市民の暮らしの質が上がったことを目指して文化的な観光客が来る。それでいわゆるジェントリフィケーションが起こって、その都市の経済が復活するというメカニズムがある。町並みがきれいになると、みんな花を飾るように。古い木造建造物を保存するといったとき必ず花が出てきて、建築的にいじっていくとこプラスそういうのが女性を中心とする市民がその町並みをきれいに飾るようになる。そこに当然、商品が来て、商品が来て付加価値、サービスがよくなって、次、美容院が出てくる、飲食店が出てくるというような、商店が再生してくるメカニズムもある程度わかってる。だから、この種のを誘導する指標を幾つか設定しながら都市再生を都市でやっていかなきゃいけない。
- 歴史的風致維持向上計画は、文化財と都市計画が最初に手をつないだ歴史まちづくり法が2008年にでき、まだそこまで商業とか観光とかを連携させて大きな計画にしていこうということまでできていない。だから、より総合的なものにしていき、ここで上がってきてるものを、今のプロセス理論に従って伸ばしてくるというような大きな戦略が必要。(宗田委員)

橋爪委員

エリア全体をどう考えてマネジメント、要は文化財施設の指定管理になるのかどうか、さっき言うたみたいになると思いますが、どう維持管理する中でマネジメントをしていくかが多分重要になると私は思う。建物だけじゃなくて、このエリア全体のマネジメントに入っていかなきゃいけないんだと。そのときにブランディングも必要で、例えば私が外郭団体の企画委員を長年やっている福岡市では、博多のエリアを博多旧市街と打ち出して、これは外から見た場合に博多の流れとかに合わなくて、博多旧市街という、中国から来る人でも海外の人たちも非常にわかりやすい。これは世界的なスタンダード的市街地概念で都市の変遷を一言で説明ができると。我々、環濠都市と言ってるけども、これをうまく説明できてるのか結構時間がかかる。例えば福岡市はそういうアイデアを出して対外的な受け入れをしますので、それを堺で旧市街と使うべきだと言ってるのではなくて、一言でわかる。一言二言、極めて短い時間でこのエリアはこういうエリアだというのがわかるような。

宗田委員

中世はよくないんですか。環濠、メディーバル堺。

狭間委員

中世の堺といいますか、旧市街という言い方は私たちはするんですけどね。

増田会長

そうですね。

狭間委員

堺の人はするんですけど。

橋爪委員

これ、外にアピールすると、グローバルスタンダードやね。

増田会長

それはもう、基本的には中国でも今、胡同ブームですしね。若い人たちにとって。シンガポールもかなり潰したやつをかなり反省しながら、もうわずかなところを。

宗田委員

URAという組織が、シンガポールの場合も決めて公的としてボートオートからクラッキーから守っていく。

橋爪委員

歴史的な雰囲気をも新しくつくったんだけど、もともと旧市街だということで、それが観光資源になります。

増田会長

ありがとうございました。大分、積極的な議論をいただいて。一度、単年度の事業ではなくて今までの事業を一度、事と物が環濠と、要するに百舌鳥古墳群エリアにどう集積してきたのかみたいな話を一度地理的空間上で取りまとめていただくと、1つは次の5年を見られるかもしれませんので、それは一度取りまとめ。物だけではなくて、そこで事を、どんなプログラムが発してるかも含めて取りまとめていただいて、一度可視化してみると、ひょっとしたら抜け落ちてることとか、意外と展開が進んでいってるような展開があったりで、少し先ほどのシナリオ管理みたいなところへ、あるいはストーリー管理みたいなところにつながっていくのではないかと。ぜひとも、今年度、一度やっていただければと思いますね。

佐藤委員

来年度ね。

増田会長

来年度ですね。平成30年度。今年度、もうあと2日ほどですから。そんな視点でしょうね。

それと、多分、もう一つは今までの、さっき1番最初に宗田先生おっしゃっていただいたように、今までのリザベーションという凍結型の完全博物学的な保存ではないという、世界的潮流の中で生きたまちをどう継続していくのかというあたりですよね。そのあたりのところと連担しないと、単なる遺物になってしまうと。そのあたりが非常に大きな視点ではないかというようなことですね。

あとは肅々とやるところでの細かいことに対しての御指摘はもうよろしいですか、お二人とも。

宗田委員

1点だけ。今の鉄砲鍛冶屋敷の流れの中で、産業遺産の話が出たんですが、決してもう新しいと言えないぐらい日本でも近代化産業遺産の取り組みをやってますし、そういう専門家もふえてきたんですが。いわゆる九州・山口の近代化産業、世界遺産登録の、今でも内閣府の委員やってるんですが、あのときによくわかったのは、文化庁の建造物化とか近代化遺産をやってる人たちでもわからないんですよ。三菱重工の歴史なんてやつは、ほとんどちんぷんかんぷんですよ。ところが、三菱重工長崎造船場に行ったら、もう東大の優秀なエンジニアのじいさんたちがわんさかいて、その三菱に奉職している間にイギリス留学とかさんざんしてもらって、原著があって、それが歴代の大三菱の歴史の中に、これが1870年に三菱が最初に手に入れた原著だみたいなのがいっぱい残って、これでガントリークレーンとかって、こういう世界をすごいオタクの人たちがこの分野において、産業遺産にはいて、この人たちをうまく動員して熱く語らせるということもあると思うんですよ。

さっきの、今のゲームとかの世界で刀がという話もちろん重要ですけど、いろんな世界でまだ眠ってる人たちが、我々の文化財行政の中にはそういう専門家がまだいないんですよ。むしろ市井にそういう人たちが、まちの中にいてですよ、そういう人たちをうまく集めてこなきゃだめだということ。仮に、私、今、食の研究を少し始めてるんですが、文献は読めても、そこに書いてある料理のことがわかるやつほとんどいなんですよね。特に江戸時代のもので、料理の、そういう状況もありますから結構丁寧に丁寧にやっていくと、どんどん世界が広がって、さらにおもしろく見えるので、産業遺産の部分に関してはもうちょっと力を入れていただきたいなと思います。

増田会長

多分、物づくりのおもしろさというのは素材ですよ。だから江戸時代の料理というのは、料理もそうだし、そのときの野菜って、今よく浪速の伝統野菜なんかの発掘してますけど、そのときの野菜ってどんなんやったんやろうとか、鉄砲鍛冶なんかでも、そのときの素材って一体どこから引っ張ってきてるのかという話で、もう切り込めるんですよ。物づくりというのは非常におもしろくて、すそ野の広がりというのは物をつくる、統合化する過程の中でいっぱい素材があるので、その辺をうまくどう引っ張り出してくるかということやと思うんですけどね。

狭間委員

きょうはいろいろ御議論いただいてありがとうございました。

今いただいた中でも、例えば鉄砲鍛冶屋敷1つが材料入るたたら製鉄もそうですけど、出先もあるんですね。じゃあ、どこに製品を納めていたのかというのでまた歴史が変わったりもするんですけど。確かに文化財課のメンバーは文化財に対してはもちろん造詣深いんですけども、博物館の、例えば歴史学の学芸員なんかとの連携ももっと強めないといけないですし、情報発信でも、実は「ハクトリンプ？」で海外のメディアの方とかも来ていただいて向こうの新聞とかにも載ってるんですけどもね、それが観光マターでやってしまってるので、それがここに情報が来て届いてないというのもあります。そういう意味ではもう少し、せっかく積み上げていく中でちゃんと発信してる部分はきっちりとまたまとめていくようにしたいなとお聞ききして思いました。何よりもまちは動いてる、生きてるものですので、遺産にするのではなくて、どうこれからもまた変動していく、これは歴史的な問題も変動していく可能性はすごくありますので、その辺も注意して活用していきたいなと思います。

それと、きょういろんな部局の者が集まってるんですけども、この事業、いろんな、確かに都心整備、道路舗装1つとっても、柱1つとってもそうなんですけども、あるいはソフトも含めてですね、例えばこれから堺は茶の湯まちづくり条例というのを定めようとしてるんですけども、この中に入ってませんけども、必ずかかわりが出てくると思うんですね。文化面、教育面、産業面、観光面、全部かかわってきますので、そういう個々の部局がやってる事業が堺の歴史まちづくりにどう貢献していくのかというの、それぞれの部局が意識しないともうかかわってこなくなっちゃいますので。その辺の横串も進行管理する中でしていきたいなと思ったところです。本当にありがとうございます。

増田会長

ありがとうございます。多分、当初、つくったときには割と横串を意識してつくってるんですけど、それが年数たつとお金の出どころというか、管理部局的に動いていきますので、どんどん分割されていくと。ほんなら、今ちょうど中間年ぐらいだと、横串でもう一度見てみる必要があるのかなと。

ありがとうございます。大体、よろしいでしょうかね。事務局のほうでも、この点だけはせっかくこのお忙しいお二人が来るようなことがございませんので、そのようなことがありませんから何か聞いておかないといけないことございますか。よろしいですか。事務局側でこんなことをちょっとアイデアをもらいたいとか。よろしいですか。特によろしいですか。

そしたら、きょうはこれぐらいで大体相互の議論ができたのかなと思いますけれども、よろしいでしょうかね。

それでは、平成29年度の協議会を終えたいと思います。来年度そのものだけではなくて、中長期にわたった戦略論まで御意見をいただきましたので、少しそのあたり注視していただいて取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

一応、私のほうでお預かりしている議題はこのようなことかと思っておりますので、事務局のほうに進行をお返ししたいと思います。貴重な意見、どうもありがとうございました。

事務局 司会

委員の先生方、皆様、ありがとうございました。

それでは、これで平成29年度第1回堺市歴史的風致維持向上協議会を終了いたします。ありがとうございました。